

珪藻の休眠過程の生理生態学

○桑田 晃(水研セ東北水研)・奥 修(MWS)

海洋においてプランクトン性の中心珪藻の *Chaetoceros* 属や *Thalassiosira* 属は沿岸域や湧昇域など栄養環境の変動が大きな海域でブルームを形成し、全海洋の基礎生産の多くを担っている。これらの珪藻は、栄養塩が供給された好的な条件下では盛んに増殖し、増殖によって栄養塩が枯渇し環境が悪化すると何らかの対策を講じて個体群を維持していると考えられる。現にこのグループの多くの種が休眠胞子を形成することが報告されている。我々はこの問題に対し、暖海性の *Chaetoceros pseudocurvisetus* を対象に、伊豆諸島周辺の局地性湧昇域における現場観測に端を発し、単離株を用いた培養実験により生理生態学的に研究を進めてきた。本講演では、これまでに得られた知見をまとめて紹介する。